

情報連絡員総括表（2026年3月）

— 静岡県中小企業団体中央会 —

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 主要三指標におけるDI値の推移（グラフ）

・本調査の見方・

◎売上高等の9項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

$$DI値 = [(好転組合数 - 悪化組合数) / 調査対象組合数] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI値は基準値 ±0.0 (=横ばい) で推移

※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告 (回答者数 59 名 : 回収率 98.3%)

○2026年3月のDI値は、前月比で「売上高」「在庫数量」「販売価格」の3指標が改善した一方で、その他6指標は悪化した。製造業、非製造業問わず中東情勢の悪化に伴う原油価格の上昇や供給不安の影響が広がっており、燃料費や資材価格の高騰、さらには調達遅延などが各業種の経営に影響を及ぼしている。

○「製造業」では、前月比で「販売価格」「取引条件」の2指標が改善し、その他7指標が悪化した。

「輸送用機械器具」では、中東情勢の悪化に伴う原油供給不安を受け、原材料や副資材の調達が困難となるなど、生産活動への影響が広がっている。加えて、石油関連製品や塗料シンナーの価格上昇も見られ、このままでは一部企業で稼働停止の懸念もあるなど、供給制約とコスト増が深刻化している。

○「非製造業」では、「売上高」「在庫数量」「販売価格」「雇用人員」の4指標が改善し、その他4指標が悪化した。

「燃料小売」では、中東情勢の悪化により原油そのものの供給不安が生じ、油種によっては市場での流通量が絞られるなど、逼迫した状況が見られている。政府の補助金措置は講じられているものの、供給制約が解消されない中で先行きは不透明であり、エネルギー供給の不安定さが業界全体に影響を及ぼしている。

(DI値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2026年3月	-32.2	-16.3	28.8	-23.7	-54.2	-35.6	-43.4	-18.6	-57.6
2026年2月	-32.8	-14.3	20.7	-19.0	-48.2	-31.0	-43.3	-17.3	-44.8
増減	0.6 ↑	-2.0 ↑	8.1 ↑	-4.7 ↓	-6.0 ↓	-4.6 ↓	-0.1 ↓	-1.3 ↓	-12.8 ↓

2.項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値	増減		DI値	増減		DI値	増減		DI値	増減	
売上高	2026年3月	-53.4	-20.1	ポイント	↓	-10.4	21.7	ポイント	↑	-32.2	0.6	ポイント	↑
	2026年2月	-33.3				-32.1				-32.8			
在庫数量	2026年3月	-13.3	0.1	ポイント	↓	-23.1	-6.4	ポイント	↑	-16.3	-2.0	ポイント	↑
	2026年2月	-13.4				-16.7				-14.3			
販売価格	2026年3月	23.4	6.7	ポイント	↑	34.5	9.5	ポイント	↑	28.8	8.1	ポイント	↑
	2026年2月	16.7				25.0				20.7			
取引条件	2026年3月	-20.0	6.7	ポイント	↑	-27.6	-16.9	ポイント	↓	-23.7	-4.7	ポイント	↓
	2026年2月	-26.7				-10.7				-19.0			
収益状況	2026年3月	-60.0	-10.0	ポイント	↓	-48.3	-1.8	ポイント	↓	-54.2	-6.0	ポイント	↓
	2026年2月	-50.0				-46.5				-48.2			
資金繰り	2026年3月	-33.3	-3.3	ポイント	↓	-37.9	-5.8	ポイント	↓	-35.6	-4.6	ポイント	↓
	2026年2月	-30.0				-32.1				-31.0			
設備操業度	2026年3月	-43.4	-0.1	ポイント	↓	/				-43.4	-0.1	ポイント	↓
	2026年2月	-43.3								-43.3			
雇用人員	2026年3月	-30.0	-10.0	ポイント	↓	-6.9	7.4	ポイント	↑	-18.6	-1.3	ポイント	↓
	2026年2月	-20.0				-14.3				-17.3			
業界の景況	2026年3月	-60.0	-16.7	ポイント	↓	-55.2	-8.8	ポイント	↓	-57.6	-12.8	ポイント	↓
	2026年2月	-43.3				-46.4				-44.8			

今月の業種別回答件数

	売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況				
	増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化			
製造業	食料品	0	2	1	1	2	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	1			
	繊維工業	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2			
	木材・木製品	0	4	0	1	0	1	0	1	0	5	0	1	0	4	0	2	0	3		
	紙・紙加工品	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1		
	印刷	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1		
	窯業・土石製品	0	3	1	0	3	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	1			
	鉄鋼・金属工業	0	3	0	3	0	0	0	2	0	3	0	3	0	2	0	1	0	3		
	一般機器	1	1	0	1	0	0	0	1	0	2	0	2	0	2	0	1	0	2		
	電気機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		
	輸送用機器	0	2	0	0	0	0	0	1	0	3	0	1	0	2	0	1	0	4		
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
非製造業	卸売業	0	2	0	2	3	0	1	1	0	2	0	2	/		0	0	0	3		
	小売業	0	2	0	2	1	0	0	2	0	3	0	3			0	0	0	0	3	
	商店街	1	2	1	0	3	0	0	1	0	3	0	2			0	2	0	2		
	サービス業	1	2	/		2	0	0	1	0	2	0	1			1	0	0	2		
	建設業	2	2			1	1	0	2	0	3	0	2			0	2	0	2	0	4
	運輸業	3	0			1	0	0	2	1	2	0	1			1	0	1	3		

3.情報連絡員からの報告

製造業

酒類	国内の醸造所が900社と増えたがクラフトビールの生産量と消費が比例しておらず、同じ顧客を取り合っている。また原材料の高騰、瓶、缶、段ボールなどの消耗品の値段が上がっており利益を圧迫している。
水産	イランの影響による原油高騰の影響で、石油由来の資材の納入に遅れが見える。また、漁船が燃料高騰の影響で漁に出ない、または海外での給油を必要としない近海への漁にのみ出る判断をし、魚価が上がるのではなく魚の水揚げ量自体が減少する事が予想される。
織物	高齢化による廃業と後継者不足の問題を抱える。
製材、木製品	建築資材や諸物価が値上がりする中、製材業界は取り残されている。市況が盛り上がり、稼働も停滞したままである。
印刷・同関連	印刷用のアルミ板の値段が更に上昇するが、顧客への価格転嫁がしばらくはでき辛い環境が続く。3月は年度末前ということもあり、設備の稼働率は良かった。4月からの用紙値上げの影響があり、3月中の注文が増加していると思われる。
骨材・石工品等	先月同様売上高が前年同月より減少し、収益状況も悪化している。
金属製品	中東情勢の影響ではないと思われるが、受注環境が悪化している。 灯油の値段が上がリ、ボイラー等の費用増加が懸念される。
生産用機械器具	メイン顧客における受注残が少なく、発注量の増加が見込めない状況にある。また、ホルムズ海峡封鎖の影響により塗料および関連作業に支障が生じた場合、前後工程にも波及し、事業継続に重大な影響を及ぼす可能性がある。海外向けおよび半導体関連は回復傾向にある一方で、国内向けおよび自動車関連は引き続き低調な状況にある。
電気機械器具	・ 2月の民生用電気機器の国内出荷金額は6ヵ月連続のプラスとなった。ルームエアコンは6ヵ月連続のプラス、電気冷蔵庫は5ヵ月ぶりにプラスとなり、民生用電気機器全体では2月として過去最高の出荷金額となった。 ・ 3月の生産は、電気冷蔵庫は販売不振の影響によりマイナス、家庭用エアコンは自治体の補助金や省エネ規制強化に対する駆け込み影響もありプラスとなった。イラン情勢と原油供給問題の推移と影響を注視している。
輸送用機械器具	日本への原油の供給不足により組立員企業の中で原料や副資材の調達が困難な状況が起きている。このままではいくと一部稼働ができなくなる企業も出てくる恐れがある。 イラン戦争の影響による石油関連商品の急激な値上がり、塗料シンナーなどにも影響が出ている。将来的には電力等にも影響拡大の懸念がある。

非製造業

セメント卸	2月のセメント国内販売は前年同月比5.5%減で42カ月連続のマイナス。単月ベースではリーマンショックや姉齒問題等、民主党政交代時期の2007年6月から10年10月までの41カ月連続減を更新した。3月は20日現在で0.5%増で推移している。官需の長期的な落込み、慢性的な建設現場の人手不足による工期の長期化や建設コスト高騰に起因する計画の見直し、働き方改革に伴う建設現場の完全週休2日制導入による稼働日の低下等複合的な要因により底打ちが見えない状況。
各種商品卸	原油高の影響で商品の再度大幅値上げにより外食、工産等に打撃。物流コストの大幅値上げも生じる。
鮮魚小売	原材料・エネルギーコストの著しい高騰が企業運営に非常に大きな影響を与えており、全く先行きが見通せない厳しい状況になることが予想される。
燃料小売	中東情勢の悪化によって、政府から石油製品の元売会社への補助金が開始された。しかしながら、油種によっては市場に出回る数量が絞られており、逼迫した状況になっている。以前のロシアによるウクライナ侵攻の時の石油製品の値上がりとは違い、今回は製品のもととなる原油そのものが日本に入っていないため、このままの状況が続けば、あらゆる産業に影響が及びかねない状況になるかもしれない。そうならないよう早く情勢が好転することを願うばかりである。
商店街	<p>年度末ということもあり、飲食店は好調だが、物販は苦戦を強いられていると考察。原材料の高騰と入手困難は続き、仕入れ金額の増大と売上価格への転嫁が困難な状況もあり、収益は減少傾向にあると考察。</p> <p>イラン戦争が発生し、物価高と相まって買い控えが起こっているようだ。原油の供給不足で直接困っているところはほぼないが、仕入れ価格の高騰がさらに進むと思われ販売への影響を危惧している。</p>
廃棄物処理	飼料、肥料製造業で、原料不足になっている。原因は、燃料高騰で漁船が漁に出ることが少なくなったため、漁獲量が少なくなりスーパーや製造業が在庫商品を出し、飼料となる魚のあら等が全く出なくなったためである。
宿泊	中東情勢による石油価格の高騰が、あらゆる石油関連商品の値上げに繋がり今後、食料をはじめ関連必需品の仕入れに影響するとともに、電気・ガス等各種エネルギー価格に波及することが危惧され、経営を圧迫することが懸念される。
総合工事	中東の戦争の影響を受け、塗装をするために必要なシンナーが入荷できなくなっている。戦争が長引けば大きな支障が出ることが予測される。秋頃から仕事量が増えてくるだろうと言われているが、期待が持てない。早期収束を願う。
職別工事	原油価格の高騰に伴い、資材価格が高騰し着工にさらに圧力がかかりそうな模様。夏までは様子見が続く。
道路貨物	貨物自動車運送事業は、物流改正法の全面施行と深刻な燃料高騰という2つの大きな波に直面している。①令和7年4月から順次施行されている改正法に基づき、令和8年4月からは保有車両150台以上の「特定貨物自動車運送事業者」等に対し、中長期計画の作成や定期報告が義務付けられる直前の段階にある。②中東情勢の影響により、燃料コストが事業者の経営を強く圧迫している。令和8年3月下旬時点で、軽油の店頭価格が1ヶ月で30円近く値上がりする地域が出るなど、歴史的な高値圏にある。国土交通省や全日本トラック協会は、燃料サーチャージ制を含む「標準的運賃」の収受を荷主団体へ強く要請している。
道路旅客	2月の運送収入は前年比7.3%伸びたものの、昨年11月に実施した静岡地区の運賃改定率10.2%に比べると3ポイント程度低い状況。コロナ後にわずかずつながら回復傾向にあった輸送人員の上げ止まりが見られるため、旅客需要を喚起する施策の導入に期待したい。

4. 主要三指標における DI 値の推移

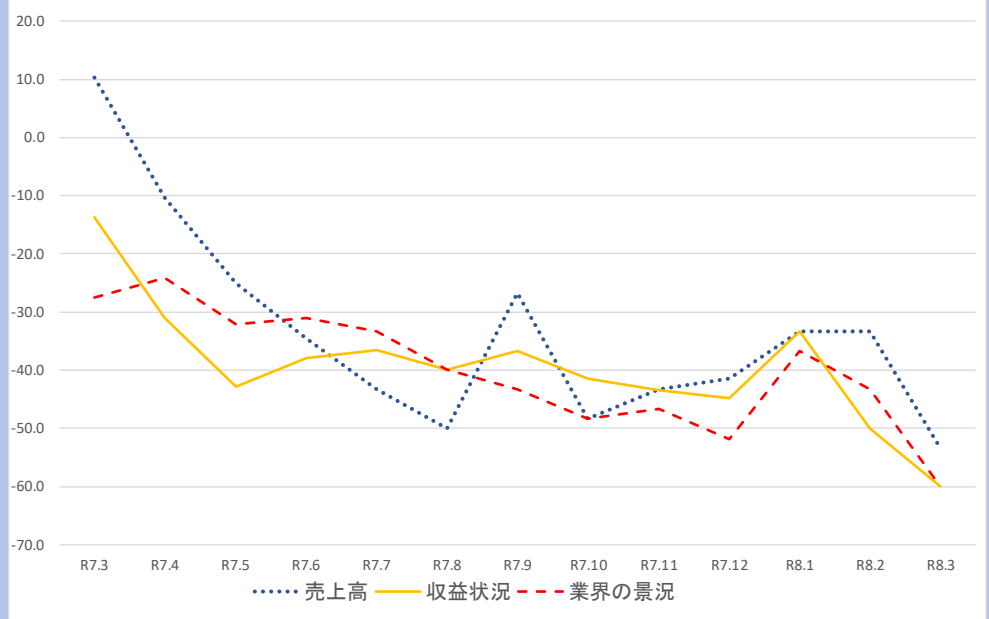
■2025年3月期～2026年3月期までの推移

全体	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2	R8.3
売上高	-3.5	-21.1	-23.6	-22.1	-29.4	-26.6	-11.7	-23.8	-28.3	-24.6	-23.8	-32.8	-32.2
収益状況	-17.9	-33.3	-25.5	-25.4	-32.8	-33.3	-25.0	-27.1	-33.3	-42.1	-28.8	-48.2	-54.2
業界の景況	-32.2	-29.8	-29.1	-30.5	-32.8	-33.4	-36.6	-40.7	-41.6	-43.8	-33.9	-44.8	-57.6

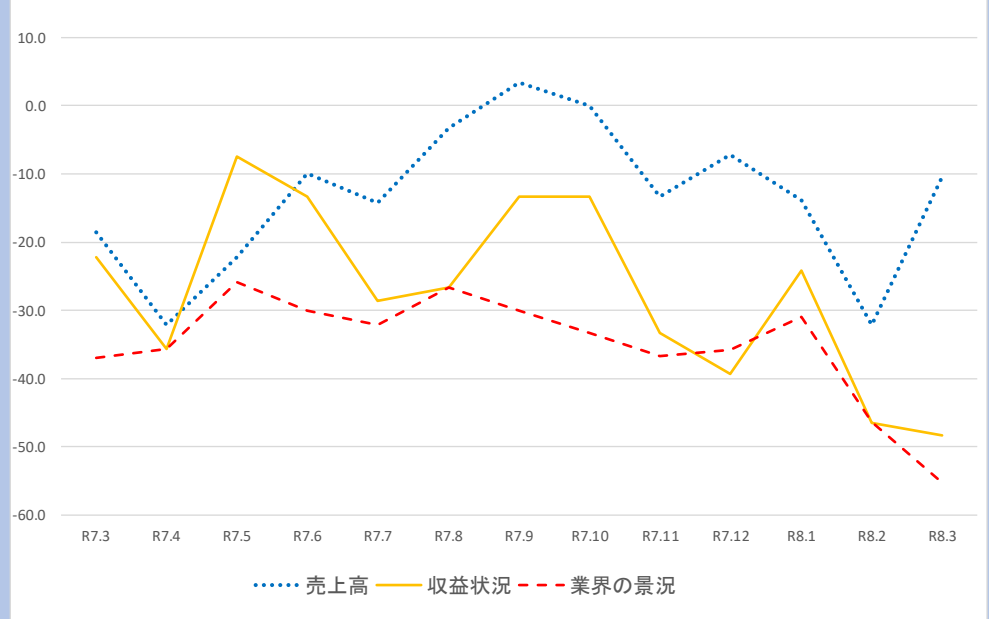
製造業	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2	R8.3
売上高	10.3	-10.4	-25.0	-34.5	-43.3	-50.0	-26.7	-48.3	-43.3	-41.4	-33.3	-33.3	-53.4
収益状況	-13.8	-31.0	-42.8	-38.0	-36.6	-40.0	-36.7	-41.4	-43.4	-44.8	-33.3	-50.0	-60.0
業界の景況	-27.6	-24.2	-32.1	-31.1	-33.4	-40.0	-43.3	-48.3	-46.7	-51.8	-36.7	-43.3	-60.0

非製造業	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2	R8.3
売上高	-18.5	-32.1	-22.2	-10.0	-14.3	-3.3	3.4	0.0	-13.3	-7.2	-13.8	-32.1	-10.4
収益状況	-22.2	-35.7	-7.4	-13.3	-28.6	-26.7	-13.3	-13.3	-33.3	-39.3	-24.2	-46.5	-48.3
業界の景況	-37.0	-35.7	-25.9	-30.0	-32.1	-26.6	-30.0	-33.3	-36.7	-35.8	-31.0	-46.4	-55.2

【製造業 DI 値】



【非製造業 DI 値】



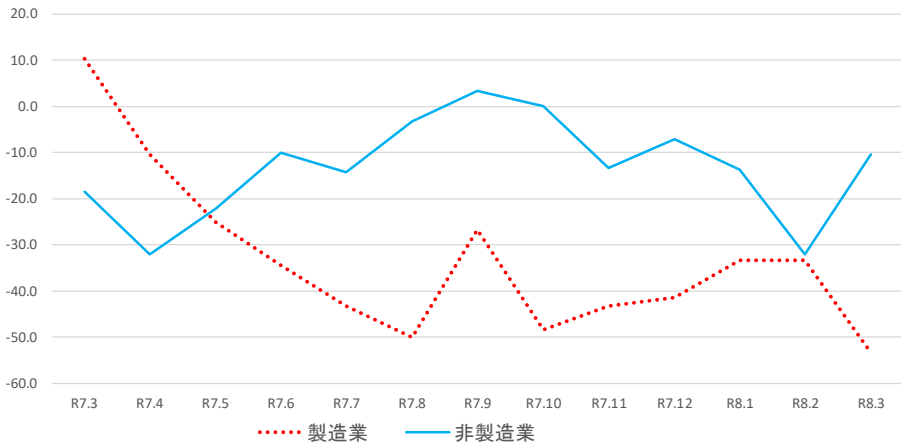
■2025年3月期～2026年3月期までの推移

売上高	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2	R8.3
製造業	10.3	-10.4	-25.0	-34.5	-43.3	-50.0	-26.7	-48.3	-43.3	-41.4	-33.3	-33.3	-53.4
非製造業	-18.5	-32.1	-22.2	-10.0	-14.3	-3.3	3.4	0.0	-13.3	-7.2	-13.8	-32.1	-10.4

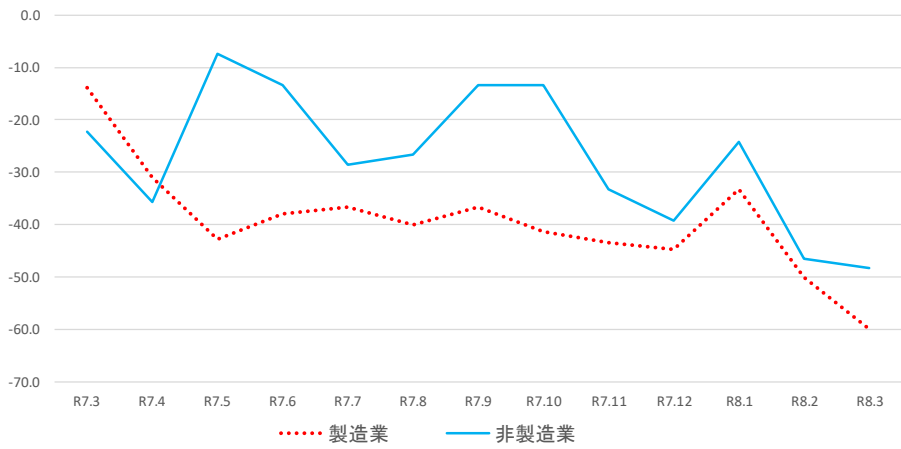
収益状況	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2	R8.3
製造業	-13.8	-31.0	-42.8	-38.0	-36.6	-40.0	-36.7	-41.4	-43.4	-44.8	-33.3	-50.0	-60.0
非製造業	-22.2	-35.7	-7.4	-13.3	-28.6	-26.7	-13.3	-13.3	-33.3	-39.3	-24.2	-46.5	-48.3

業界の景況	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2	R8.3
製造業	-27.6	-24.2	-32.1	-31.1	-33.4	-40.0	-43.3	-48.3	-46.7	-51.8	-36.7	-43.3	-60.0
非製造業	-37.0	-35.7	-25.9	-30.0	-32.1	-26.6	-30.0	-33.3	-36.7	-35.8	-31.0	-46.4	-55.2

【売上高／製造業と非製造業の比較 D I 値】



【収益状況／製造業と非製造業の比較 D I 値】



【業界の景況／製造業と非製造業の比較 D I 値】

